

令和7年度小名木川第二保育園でとうきょうとすくわくプログラムに取り組みました。

テーマ「感触」

特色でサイエンスプログラムの中で身近な活動の中から（素材・自然・生き物）なぜ？どうして？と子どもたちが感じることを大切にして保育を展開しているため。

各クラスの活動内容

0歳もも組 粘土の感触

粘土遊びを通して、ちぎったり、伸ばしたりする感触を楽しみました。触っているうちに形が変わる様子に興味津々のこどもたちです。また、粘土を見慣れないのか、少し緊張する子もいました。保育士が粘土で遊ぶ様子を見せると、興味が出て少しずつ触るようになりました。こどもたちの様子を見守っていると、粘土を落としたり、落ちた粘土を別の子が指差して笑ったりと、自分たちで遊び方を広げていました。



1歳児ゆり組 寒天の感触

寒天遊びを通して、冷たい感触や切ったりつぶしたりといった感触などを楽しみました。個々の表情や言葉に目を向けて、楽しい、気持ちがいい、などの感情や、触りたくない、いやだという感情も大切にしてきました。繰り返し楽しむことができました。

トランポリンやマットを使用して足もとの感触も楽しみました。足元が沈む感触を楽しみ、ジャンプジャンプ！！とジャンプしたり、寝転んで地面が揺れる感覚も楽しんでいました。

2歳たんぽぽ組 絵具の感触

えのぐの感触あそびは、ハンドペインティングから始めました。机上の大きな模造紙に指で遠慮がちにつけていましたが、だんだん楽しくなってくると、両手でダイナミックにつけ、色が混ざり合う様子やえのぐの感触を存分に楽しんでいました。2回目以降はテラス一面に紙を敷き、足跡をつけてみたり、腕にぬってみたりとえのぐとの触れ合いを全身で楽しむ姿がありました。始めは、感触遊びが苦手だった子も繰り返し行う中で、友だちの楽しそうな様子にえのぐに興味が出てきて、最後はみんなで楽しむことができました。



各クラスの活動内容



3歳 ボディペイント

ボディペイント用の「ゆびえのぐ」を使って絵の具の感触遊びをしました。もったりとした感触に「あれ？いつもの絵の具と違う！」と、目を輝かせることもたち。プールで絵の具遊びをする新鮮さもあり、「やっていいの～！？」とワクワク！

大きな模造紙に手形や足形をつけて楽しんでいました。だんだん楽しくなってくると、自分や友だち、保育者の腕や足に絵の具を塗ったり、気づくと顔に絵の具がついていたり…とてもダイナミックに、そしてじっくり絵の具の感触を楽しみました。

4歳 絵具の感触

絵の具の感触を少人数で楽しみました。筆やローラーを使ったり、絵の具を自分で出して好きな量を用いて画用紙に塗り広げてみたり…長いロール紙を見てはびっくりしながらも、これに絵の具を使っていいの?!とワクワクしていました。

絵の具に触れる中、どんな道具を使うより、何より楽しんでいたのは、自分の手足を使って触れたことでした。「きゃー冷たい」「気持ちいいね」と友だちと話しながら、次々と自分の手形を押してみたり、足に絵の具を伸ばしたりしていました。どの子も楽しんでいる時のキラキラした表情が印象的でした。



5歳

昨年の経験から、こどもたちより「カラフルな砂で遊びたい」という声があった事・普段より、粘土や砂といった感触あそびが好きなこどもたちの様子から【色砂の感触を楽しむ】というテーマにしました。まずは赤色の砂に触れ、「どうやって色がついているのかな？」と不思議に思ったり、手だけではなく、腕や足など全身で砂の感触を味わう姿が見られました。赤色に加え、黄色の砂や本物の砂を追加することで本物の砂と感触や粒の細かさを比較してみたり、黄色の砂と混ぜてあそびが発展しました。さらに容器を使ってみたりなど様々な経験を通して、色んな色砂を自分たちで作ろうという提案まで繋がっています。試行錯誤していきながら、今までの経験を元に、本物の砂に絵の具を混ぜてみたり、クレヨンを入れてみたりと砂のあそびで色んなこどもたちの姿・発想が見られました。

(園全体の振り返り) 保育士が色々な素材を準備して、こどもが5感を使い感触を感じている姿が、少人数で行うことで一人一人の声を聴きわくわくしている姿を感じられました。また、こども達の体全体がこんなにも楽しいことなのだということを、こども達の姿を見て強く実感した。こども達が主体となり進めていき、発展していくことは、保育士もいろいろな素材で体験して探求することが必要と感じた。少人数で行うことで保育者から見えているこどもが一人ひとり違った面を見ることができました。肯定的なことばをかけることでのびのびしていることがわかった。保育士がわくわくする気持ちを持つことでこどもとの共感が今以上持てました。来年度もこどもも保育士もわくわくできる取り組みをしていきます。